

ルース駐日米大使が約50人の学生と対談 多岐の質問に丁寧に対応され、和やかに交流

ジョン・V・ルース駐日米大使が昨年12月8日、中央大学多摩キャンパスを訪問、学生と対談した。学生会100周年記念学術企画として行われたもので、大使は会場のCスクエア3階小ホールで、約50人の学生と和やかに意見交換。その様子は2階中ホールに同時通訳付きで映像配信された。

ルース大使はまず、全国各地の大学を訪問している理由について①学生はこれからの日米関係に大きく関わっていく、世代②経済の「失われた20年」の中で育った世代のチャンスと責任は自分たちが担っている、からとの考えを示した。

対談は、大使がランダムに指名した学生が質問し、

その質問に大使が答えるという質疑応答形式で行われた。

対談の最初に飛び出した「今の若者は何が不足していますか」という質問に對



学生の質問に丁寧に答えるルース大使

して、大使は「日本の学生は、もっとリスクを犯して世界にチャレンジして欲しい。グローバルな視野で物事をみて、いろいろ考えて欲しい」と要望。また、日本の英語教育について、グローバル社会で競争力をつけるためにも「もっと会話力を磨くべきだ」と述べた。

これに関連して留学を希望する日本人学生数が低下していることについては、「非常に残念だ」とした上で、「自分が大学時代に留学しなかったことを失敗だっただと思っている。いろんな人と話すこと、いろんなものに自身を触れさせることで、人材としての幅が広がる」と海外留学の重要性を強調した。

Twitterなどのソーシャルメディアについては、「すごいパワーをもっている」と評価する一方で、「ソーシャルメディアで世界と繋がっているからといって自

分自身が世界に出て学ばなくてよいということにはならない。国同士が緊密であるためには実際にその国に行って、もっと人と知り合うべきだ」と指摘した。

日本の政治についてもいくつか質問が出たなかで、首相が短期間に入れ替わることに關して、「日米間の基本的な関係は影響されないものの、外交問題は国のリーダー間の個人的な関係が重要」との認識を示し、「よく知り合い、尊重し合うことだ」と述べた。

このほかルース大使は、沖縄駐留米軍やTPP参加、死刑制度、中国を中心にしたアジア情勢、捕鯨問題、それにアメリカの原子力開発など学生からの多岐にわたる質問に對し、ひとつひとつ時間をかけて丁寧に答えた。

一方、大使は、これまでに40都道府県をまわったなかで、昨年3月11日の東日

本大震災の後に訪ねた被災地慰問は、「とても悲しく、衝撃を受けた経験となった」と振り返った。

ルース大使への学生の質問数は30を超え、大使は学生の質問のレベルの高さを賞賛した上で、予定された

時間を1時間半以上も過ぎても、全ての質問に対して真剣に応答された。時折笑い声も混じった大変和やかな対談となり、対談後、大使と参加学生全員との写真撮影が行われた。

なお対談に先だってルー

ス大使は、福原紀彦総長・学長、若林茂則副学長、ヘッセ・ステイヴン国際交流センター所長と懇談した。

（学生記者 中野由優季 法学部3年）

「世界を相手に大きく羽ばたいて」 赤阪国連事務次長が中大生と懇談

赤阪清隆・国連事務次長と中央大学学生との懇談会が昨年12月19日、国連大学本部ビルで行われた。国際連合広報センターと Global Model United Nations Japan（日本模擬国連）共催で開かれた「激動の世界と日本 若者よ、元氣を出せ」と題した講演会に先立って、約20分行われた。

出席したのは、赤阪国連事務次長と国際連合広報センター（UNIC）の山下真

理氏、中央大学からは加藤俊一副学長、若林茂則副学長、それに参加希望した14名の学生で、テーブルを囲んで和やかな雰囲気での懇談した。

冒頭、赤阪国連事務次長は、2011年は日本にとっては東日本大震災の年であり、世界に目を転じればアラブ世界で起きた「アラブの春」に象徴されるソーシャル・メディア革命の年だったと指摘。とくに「アラブの春」について、

「インターネット上のブログ、ツイッター、フェイスブック、ユーチューブなどがその力を十分に発揮して、数多くの人々の間の迅速な連絡を可能にしました。これは独裁者にとっては大きな脅威となりました」と解説した。

続けて、赤阪事務次長は「今、フェイスブックを活用に使っている人が世界に8億人以上、ツイッターは1億人いるといわれています」と紹介したうえで、



赤阪国連事務次長（中央）と懇談する学生たち

のか。また海賊を生みだしている国、例えばソマリアなどに国連は今後どのような介入をしていくのか」と質問。これに対し、赤阪事務次長は「海賊はすぐ難しい問題です。現在、捕まえた海賊を裁判に

「フェイスブックができてから、10年も経っていない中、世の中がめまぐるしく変わっています。私達は、常に情報アンテナをはる必要性があります」と強調した。

つぎに、質疑に移り、大学院生が「海賊に対し国連はどのように対応していく

かける国際的な機関がありません。またソマリアは政情不安な状態が続いているので、どのように支援をしていくのかは非常に難しい問題です。国際社会の中の更なる連携が必要であると考えます」と述べた。

短い時間ではあったが、最後に赤阪事務次長は「日

本が世界の国々から尊敬され、国の勢いを取り戻すようになるためには、皆さんのような若い人たちの世界を舞台にする活躍が不可欠

です。内にこもることなく、自信を持って、世界を相手に、大きく羽ばたいてください」と学生にエールを送った。

(学生記者 梶原麗奈Ⅱ 学院公共政策研究科修士Ⅱ 年)

第5回附属4校英語スピーチコンテスト 黒川満由さん(横浜山手高2年)が総長賞受賞

第5回中央大学附属4校英語スピーチコンテストが

1月14日、中央大学杉並高等学校で開かれた。中央大学高等学校、中央大学杉並高等学校、中央大学附属中

学校・高等学校、中央大学横浜山手中学校・高等学校の4校から、それぞれ3名

計12名の高校生が発表を行った結果、横浜山手高校2年の黒川満由さんが、最



総長賞を受賞した黒川満由さん

も優れたものに贈られる中央大学総長賞に輝いた。

この大会は2007年、当時の中央大学附属高等学校の学校長であった金子雄司先生(法学部教授)の「附属3校(現在は横浜山手が参加して4校)の生徒の知的レベル向上を図る機会としてスピーチコンテストを開催したら」との提案ではじまった。この提案は中核

①「最近の出来事や体験か

ら感じたこと」②「尊敬する歴史上の人物について(またその理由も)」③「その他の自由なテーマ」の3テーマで、この中から参加者が一つのテーマを選んで、一人5分で発表した。

この日のスピーチコンテスト本戦には、総計24名が参加して4校それぞれで行われた予選会を勝ち抜いた各校3名計12名が臨んだ。

また、エキシビジョンとして中央大学附属中学校と中央大学横浜山手中学校の中学生10名(各学年2名)がレシテーション(暗唱)を行った。

審査はヘッセ・ステイヴン先生(法学部教授)、ロバート・モートン先生(商学部教授)、ゲイリー・キャンター先生(経済学部教授)、それに今年度から加わったマイケル・ブレナン先生(総合政策学部准教授)の4名の先生が行い、総長賞と特別賞の受賞者が決まった。

総長賞に輝いた黒川満由さんは、「上手に発音できず何度も外国人の先生にチェックしていただきました。実際始まってみると、みなさんのすばらしいスピーチに圧倒されながらも優勝することができ自信につながりました」と振り返りながら、笑顔で受賞を喜んだ。

黒川さんが英語の勉強に興味を持ったのは、中学の時の英語の授業が楽しかったからだ。高校に進学し、学校主催の10日ほどのオーストラリア研修に参加し、さらに英語への意欲が湧いてきた。

今も英語の授業での宿題に加え、「耳読書」などの英語の教材を活用して英語の勉強に熱心に取り組んでいる。黒川さんは、「将来は世界と関わるような仕事をしたい」と夢を膨らませている。

(学生記者 斎丸仁志Ⅱ文学部2年)

Light and Shadow of the Sky Tree

Kurokawa Mayu (黒川 満由)

A junior at Chuo University Yokohama Yamate High School (Yokohama)

Hello, everyone. Today, I'd like to talk about "the Light and Shadow of the Sky Tree". "The Sky Tree" in Sumida-ku, Tokyo, soon to be completed, attracts much attention. Boasting a height of 634m, it will be one of the world's tallest. It's equipped with a general energy saving plan. For example, a large-capacity water tank, facilities which reduce electric consumption, and so on. It is a great building which mixes old Japanese building structure, and the most advanced techniques. However, did you know that there are problems behind the Sky Tree?

Trouble occurred. There was a demonstration parade by homeless people who load empty cans on to carts. The front banners said "Collecting aluminum cans and newspapers is our job." And "Don't take poor people's jobs away by force." The Sumida-ku by-laws were revised as follows. 'People other than specific traders are prohibited from carrying away empty cans and newspapers. Violators will be charged by police or fined two hundred thousand yen.' So, the homeless who make their living by collecting resources had a sense of impending crisis and held a demonstration.

I often see homeless people living in houses made of cardboard at Kannai Station on the hot summer days and the cold winter days too.

I feel sad whenever I see them. Also, one day I saw a homeless person who was kneeling and begging at Ishikawa-cho station on my way home from school. I wanted to do something, but I thought "if he runs after me, and if he remembers me, what shall I do?" I became fearful. After all, I couldn't do anything, but I later regretted it.

Based on my research on the homeless, the proportion of those collecting resources is 87%, and day laborers are 9%. I understand how important collecting resources is to their lives. I understand that the number of the homeless has been rapidly increasing for the last decade. Why doesn't the number of homeless decrease? Because, for example, if there isn't a guarantor, they cannot live in an apartment. In addition, they can't have anything to do with a placement office if they don't have an address and so on. In other words, they can't work without money.

I think it must never be the case that "when poverty comes in the door, love flies out of the window." Most importantly, it should be work to get an income. However, even work is not possible if we don't have money. Don't you think that it is a strange society?

The Sky Tree makes full use of great technology. But behind it, I knew for the first time there were suffering people. "Although I know collecting resources is an illegal act, the homeless can't help but do it." This comment remained in my mind. I think we mustn't take the jobs of poor 'homeless' people. I think such laws were made by the people who couldn't understand the situation. The government should put people before urban development.

That is why I have a suggestion. Firstly, the government should give priority to preparing an environment in which the homeless can live, and they should secure accommodation space for the homeless at one corner of the Sky Tree. Also, they should provide food and clothing. And, for example, the homeless could earn money by working as dustmen at the Sky Tree or by engaging in various activities. When they become independent, they will return a part of the reward to the government which supported them. Also, the government should enable them to be able to do the work they want to.

I think after all, nothing was solved by just a policy. A strong bond with society and the area is indispensable. According to the data, I understand people have impressions like "the homeless are dirty and lazy." Many people are indifferent to the homeless. But it is a misunderstanding. I think the most important thing is a heart that is considerate to others without looking down on them. If there is support from the government and each persons' conscience, the Sky Tree will become a true Japanese symbol and be loved by everyone.

Thank you for listening.

◆ ◆ ◆

第5回附属4校英語スピーチコンテストの各賞受賞者は以下の通り。

◇中央大学総長賞

黒川満由さん（中央大学横

浜山手中学校・高等学校

／高校2年）

タイトル：Light and shadow of the Sky Tree

◇審査員特別賞（内容・構

成部門）

青木悠夏さん（中央大学附

属中学校・高等学校／高

校1年）

タイトル：For Whom Is TPP?

◇審査員特別賞（英語表現

部門）

菅野誠一郎さん（中央大学

高等学校／高校1年）

タイトル：Through a Cup

of Japanese Tea

◇審査員特別賞（発音・ア

ピール部門）

柳岡佑果さん（中央大学杉

並高等学校／高校3年）

タイトル：Why I Admire

Oskar Schindler from

the Movie "Schindler's

List"

仁川大学の教員・学生が本学で研修 日中韓グローバルプログラムの一環

日中韓グローバルプログラムの一環で来日した韓国・仁川大学のリー・カビョン副総長はじめ教員3名と学生15名が、2月4日から10日まで中央大学で研修を行い、この間6日には多摩キャンパスを訪れ、福原紀彦総長・学長を公式訪問した。

このプログラムは、日本の中央大学、韓国の仁川大

学、中国の対外経済貿易大学と天津理工大学大学が「東アジアにおける持続可能な地域設計と地域ガバナンスの研究教育拠点づくり」をテーマに推進しているもので、今年4月からの具体的実施を前に、準備段階の一環として仁川大学の一行が来日した。

また2月23日から25日の日程で、仁川大学の主催で

開かれた国際シンポジウムに、中央大学から教員5名、学生23名が参加。その際に、中国の対外経済貿易大学、天津理工大学から参加した教員も加わり、相互の学生交換、合同フィールド実習、単位互換など、今後の具体的な取り組みについても検討した。

プログラムは具体的には、環境教育や環境政策の立案

といった大学の持つ研究・教育機能を十分に活かして、東アジアにおける持続可能な地域設計と地域ガバナ

スの研究・教育の拠点づくりを目的にしている。中央大学で1999年から始められ、文部科学省の



福原紀彦総長・学長（前列右から4人目）と記念写真におさまる仁川大学の一行

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(2004年度)、「質の高い大学教育推進プログラム」(2008年度)に採択された研究・教育の取り組みを、中国、韓国に展開。また、大学の研究・教育機能を活用して、地域の活性化を図るという「中大・八王子方式」を、中国の対外経済貿易大学・北京、天津理工大学・天津、韓国の仁川大学・仁川に展開させることも推進する。

教育・研究の具体的な取り組み内容については、日中韓の参加大学が共同してフィールド実習を行うとともに、プログラムに関わる科目履修を条件として共同の修了証書を付与。それぞれの大学にある既存の科目と留学制度を活用し、日中韓の大学研究者がこれまでに培ってきた強い連携を活かして、プログラムを進めて行くこととしている。